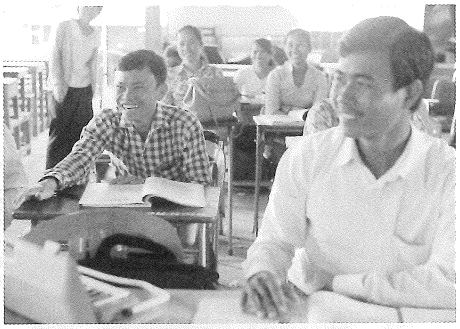
教育支援（音楽教育）

子どもたちが音楽の楽しさを知り豊かな情操を育む機会を！



音楽の楽しさを体験から学べる研修を目指して

2014年度は、プレイベン州のコンポントラバイク郡の小学校9校の教員27名、校長9名、教育省、教育局などの教育関係者を対象に2回の研修を実施しました。

日常的に音楽活動に親しむことが少ないカンボジアの現状を踏まえ、最も重視したことは、教員が「音楽活動の楽しさを知る」こと、「苦手意識を生まない内容」とすること、また、実際の学校現場へそのまま持ち込める「体験を通して身につく活動」を取り入れることでした。そのため、馴染みのあるカンボジア曲の歌唱を中心とし、音楽教育の基本となる「聴く力・歌う力」を高めると同時に、音楽ゲームや、ボディパーカッション、おとあそびなどの表現活動を多く取りいれることで、様々な表現や楽しむ方法があることを体験的に理解できるような内容の研修を組みました。

また、第2回目は、新たなカンボジア曲、ボディパーカッション、手作り楽器、器楽（鍵盤ハーモニカ）などの活動を中心に内容を深め、最終日には成果を披露する発表会を行いました。

研修の最初は、音楽活動の基本となる「リズムをとる」感覚が掴めず、手拍子が揃わない、拍に合わせて手を叩けないなどの場面が多くみられましたが、2回目には歌唱の際の手拍子のずれが少なくなり、自らリズムを創作するなど大きな成長が見られました。

2015年度の第3・4回研修では、授業観察と中間調査から見えてきた課題点をカバーすることをメインとします。音程に対する感覚などの「音楽の力」を強化し、リズムや音の高低などの基礎となる力を「分かりやすく子どもたちに伝え伸ばす方法」を学んでもらうことを目標とします。また、授業の組み立て方について授業研究会のような形で学び合う機会を作りたいと考えています。

楽器配布の取り組み

2014年度は、幼稚園教員養成校、スワイリエン州教育局、プレイベン州の対象教員（写真右）、マーチングバンドメンバーなど、約800台の鍵盤ハーモニカ、約40台のリコーダー、カスタネットなど打楽器を寄贈することができました。近年は、教員育成を軸に地域を絞り活動を展開しているため、JHPプロジェクト内で配布できる数は限られていますが、カンボジア内の他組織から寄せられるリクエストにも応えながら、配布を継続しています。

音楽活動による教員、生徒の変化（授業観察での聴き取りから）

－最初は恥ずかしがっていた子どもたちが、恥ずかしがらずに発表できるようになり、子どもたち同士で協力する姿勢も見られるようになった。

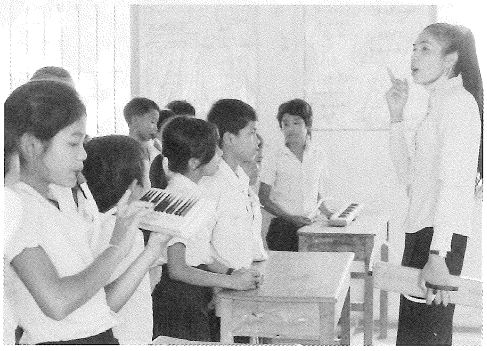
－音楽の授業の欠席者はほとんどおらず、子どもたちはリラックスしているように見える

－低学年で字を読める子どもが増えたと感じる。

－初めは指導を途中で止めたいと思っていたが、子どもたちが楽しんでいる姿を見て続けたいと思った。今では、授業時間だけでなく毎日少しずつ教えている。他のクラスの先生たちにも広めたいと思っている。

プロジェクトの背景

カンボジアの音楽教育は、教育課程の中で独立した科目でなく、小学校では「社会科」の一部として位置付けられており、指導に十分な時間数がありません。また、学校の経済状況や教員の技術・知識が十分でないことから授業が実施されていないケースもあります。指導されている学校でも、指導内容は歌詞の書き写しや伝統楽器の名称を覚えることなどに限られており、子ども達が音楽に親しみ、音楽を通した「自己表現」活動により、協調する力や表現力、豊かな感性と心などの情操を育む機会は極めて少ないと言わざるを得ません。



より質の高い音楽カリキュラムの開発を目指して

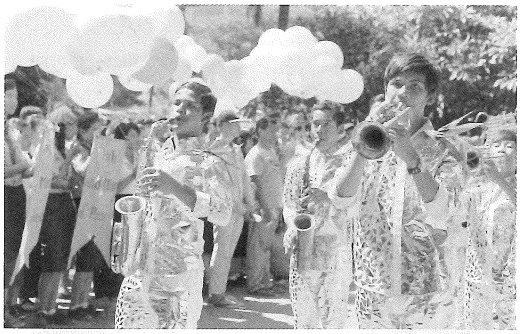
2015年3月、中間調査の一環として、対象校9校においてトレーニングを受けた教員が実施する音楽授業の観察会を実施しました。

今回の授業観察会は、第1回、第2回研修後、対象校で実際に音楽の授業が行われているかどうか、また、研修で学んだことから対象教員がどのような授業を行っているかを観察し、その上で、課題や強化が必要な点を確認し、今後の研修でどのような内容を学んでもらうことが必要かを検討することが目的でした。今回は、当事業に音楽教育専門家として協力を頂いている国立教育政策研究所の教科調査官津田正之氏の3回目のカンボジア訪問でもあり、授業観察後には、津田氏を初めとした当事業に携わるカンボジア人インストラクター（音楽）やカンボジア教育省職員より対象教員、学校長へアドバイスや現場からの質疑応答を行うミーティングの時間を設けました。このミーティングでは、異なる専門を持つ各人より、音楽教育・カンボジア音楽・カンボジアの教育政策という幅広い見地から意見を聞くことができ、非常に有意義な時間となりました。

当事業は、初等科音楽カリキュラム開発を兼ねた事業となっており、2年半の事業において、教育省カリキュラム編成局とともに初等科音楽教育指導書及び生徒用テキストなどの教材を完成させることを目的の一つとしています。この教材開発においては、作成した教材を元に、研修→フィードバック調査・観察→改訂を繰り返しながら、カンボジアの学校の現状により即した質の高い教材とカリキュラムとなることを目指しています。

マーチングバンド支援は大きな転換の年に

2014年度は、ワットプノン中・高25回、コラップⅠ小39回、サクラクバルチュロイ小41回の練習を支援しました。8月には、専門家の岩山雅弘氏を派遣し、8月12日の国際青少年の日のパレードに出演しました。ワットプノン中・高については、2014年11月末で支援を完了し、JHPの働きかけでカンボジアで初のコミュニティーバンドが設立しました。JHP支援から自主運営に替わりましたが、多くのメンバーが演奏機会を独自に開拓し、練習を継続しています。残り2校も、2015年3月末で支援を完了し、今後は学校の自主的な活動に切り替わりました。今後も、楽器の支援を通じてマーチングバンドの活動をサポートします。



パレードで演奏するワットプノン中・高の生徒たち